

口蹄疫 防疫対策の徹底 !!

O型に加えA型の口蹄疫侵入リスクも高まっています

* 2000年、2010年の日本での発生はO型によるもの

- ・ 口蹄疫の血清型は、O,A,C,SAT1,SAT2,SAT3,Asia1 の7つ
- ・ 東アジアで問題なのは、O,A,Asia1 の3つ

A型口蹄疫ウイルスの感染実験での症状

牛の病態

- ・ 口唇や蹄の趾間に水疱形成
- ・ 感染初期から、唾液から多量のウイルスを排せつ
- ・ 発熱・流涎のない個体もいたので注意



豚の病態

- ・ 強い水疱病変が発現
- ・ 感染初期から、唾液や蹄の水疱から非常に多量のウイルスを排せつ



- 実験では牛で水疱は趾間に見られ、確認が難しく注意が必要
 - 普段から、口腔内、蹄、全身状態を確認することが重要
- 牛では1頭のみに着目すると見落とす恐れがある
 - 流涎する個体が多い、症状が急速に広がる等群としての異状の有無を確認することが重要

2月にロシア(ザバイカリエ地方)で口蹄疫(O型)3件発生

2月1日 牛248頭、羊、山羊150頭

2月7日 牛22頭

2月8日 牛3頭

- 中国での今年の発生状況(1月2日A型、1月3日、1月10日O型)
 - A型: 1/2 牛646頭、羊203頭、豚108頭
 - O型: 1/3 牛40頭、豚1520頭 ・1/10 牛14頭、羊21頭
- モンゴルでの今年の発生状況(1月1~15日 O型)
 - 1/1 牛92頭、山羊35頭、羊60頭
 - 1/2 牛184頭、山羊25頭、羊63頭(3農場)
 - 1/6 牛20頭
 - 1/15 牛186頭、山羊343頭、羊340頭(2農場)

「衛生管理区域への病原体持ち込み防止」の再確認

- ✓ 必要のない人を立ち入らせない
- ✓ 洗淨・消毒の徹底(靴、車、物品)
- ✓ 発生国への渡航自粛

<口蹄疫ウイルスに有効な消毒薬>

(pH6以下の酸性、pH9以上のアルカリ性のもの)

酸性: ビルコンやクレンテなどの消毒薬、酢酸、クエン酸

アルカリ性: 消石灰、炭酸ナトリウムなど

*** 逆性石鹼(パコマ、アストップ、クリアキル等)**

アルコールは効きません!!

帰国後の留意事項

発生国に

行かなければならない場合

- ✓ 肉製品等を持ち帰らない
- ✓ 帰国の際は動物検疫所に立ち寄る
- ✓ 帰国後1週間は衛生管理区域に立ち入らない
- ✓ 海外で使用した衣服や靴を持ち込まない

異状を認めた場合は家畜保健衛生所に連絡してください

中濃家畜保健衛生所 ☎ 0574-25-3111

閉庁時は案内に従い「1」番をプッシュしてくださいつながらない場合は 0574-25-3484

土日・祝日、閉庁時も通報を受け付けます